

【優秀賞】 心のダム

矢板市立泉中学校 二年 石下香織

「ゴー！ダダ、ザブン！ザブン！」

昨年の8月7日の朝のことです。私は、地震とも、大波とも思える物凄い音で目が覚めました。びっくりして窓から外をうかがうと、家の東側を流れる宮川が、いつもとはまるで違う恐ろしい姿をしていました。濁流がうねり、渦巻き、カーブしたところでは川の土手にぶつかって水しぶきが上がっています。川底からは3メートル以上あるはずなのに、川の水がもう少しであふれそうで、家まで流れ込んできそうです。今まで経験したことのない大雨で怖くなった私は、慌てて家族のところへ行きました。言葉を失っている私に、祖母が話しかけてくれました。

「ほんとすごい大雨だね。だけど、うちは少し高くなっているから、水はのってこないから大丈夫だよ。」

昔からこの地域で暮らしてきた祖母は、落ち着いていました。そして、それに続けて、こんなことを教えてくれました。

「ダムがなかった頃は、大雨が降ると毎回のよう大きい石とか流れてきて、もっとすごい音だったよ。うちの裏（後ろ）にあった家が川からのった水に流されてしまったこともあったんだよ。ダムができてからは、そんなことがなくなって、本当に良かったよ。」

水田はあるのに、山に沿った高台にばかり家があるのが、私の住む矢板市長井地区の特徴です。きっと、昔は祖母の言う通り、度々水害に見舞われていたのでしょう。私の家のすぐ上流には、寺山ダムがあります。上水道水の確保と灌漑用に作られたロックフィルダムですが、大雨のたびに水がのったり、土砂災害に遭っていた長井地区にとっては、救いの神のような存在だったに違いありません。

生まれてから一度もひどい水害には見舞われたことがなかったのも、私はそこまでダムのありがたみというもの、真剣に考えてみたことがありませんでした。でも、ダムがあっても、あの水位、あの勢いです。

もし、ダムがなかったら、もっと大きな被害を被っていたことでしょう。私も心の底からダムがあって本当に良かったと思いました。

でも、ダムだけに頼っているわけではありません。長井地区は杉、ヒノキなどを中心に数多くの材木用の木が植えられています。また、地域の特産品であるりんごの木もたくさん植えられています。森林には、水をためる働き、木が根を張って土砂崩れを防ぐ働きがあります。数多くの土砂災害を教訓にして、そういった「緑のダム」「森のダム」が作られてきたことも、災害を防いだ原因のひとつだと思います。

現在、ダムの建設がいろいろな点から見直されてきています。お金をかけずに、土砂災害が防げるならそれに越したことはありません。「ダムだけで治水を考えるな」という考え方にも賛成できます。しかし、今は、伐採のし過ぎや林業の不振で、山そのものが荒れてきてしまっています。つまり、「自然のダム」としての働きが弱くなっています。また、アスファルト道路やコンクリートで固められた直線的な水路が、一気に水を集めることで起こる都市型の水災害も問題になっています。水災害の問題はますます複雑になるばかりです。だからこそ、地形や土壌、地域の特色、立地条件などによって、もっと細かに観察したり、データをとったりして、その土地に合った治水の仕方を考える必要があるのではないのでしょうか。

そのために私たちは、まず自分の住む地域やそこに関わる地域の水問題について興味を持つことが大切だと思います。そうすれば、自分たちを取り巻く水の問題点を発見し、改善に向けていろいろな活動を展開することができます。水に関わる問題について、社会の一人ひとりが「心のダム」のようなものを持つことが、問題解決の近道だと思うのです。